

ヒブ(Hib)感染症の予防接種について

令和6年度より、五種混合ワクチンが定期接種化されます。

令和6年度から、五種混合ワクチンが定期接種化されました。ただし、四種混合ワクチンとヒブ(Hib)ワクチンを接種されている方は、最後まで同一のワクチンを接種してください。

ヒブ(Hib)による感染症について

インフルエンザ菌、特にb型は、中耳炎、副鼻腔炎、気管支炎などの表在性感染症の他、髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な深部(全身)感染症(侵襲性感染症とも言います。)を起こす、乳幼児にとって問題となる病原細菌です。Hibによる髄膜炎は平成22年以前は、5歳未満人口10万対7.1~8.3とされ、年間約400人が発症し、約11%が予後不良と推定されていました。また、生後4か月~1歳までの乳児が過半数を占めていました。現在は、Hibワクチンが普及し、侵襲性Hib感染症はほとんどみられなくなりました。

ヒブ(Hib)ワクチンについて

インフルエンザ菌b型による感染症、特に侵襲性感染症(髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節炎、喉頭蓋炎、肺炎および骨髄炎など)を予防するワクチンです。インフルエンザ菌b型から精製した莢膜多糖体(ポリリボシルリビトールリン酸)と、破傷風トキシノイドを共有結合した結合体ワクチンです。

副反応

副反応としては、局所症状として発赤、腫張、硬結、疼痛など、全身反応として発熱、不機嫌、異常号泣、食欲不振、嘔吐、下痢、不眠、傾眠などが認められています。重い副反応としては、非常にまれにショック、アナフィラキシー、けいれん、血小板減少性紫斑病が報告されています。

対象者及び 接種スケジュール について

生後2か月以上5歳未満(5歳の誕生日の前日まで)

※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。

※2回目以降の接種は、ワクチンを接種した日の翌日から起算してください。

1回目接種開始月齢

接種間隔

生後2か月以上
7か月未満

初回接種：27日以上(標準的には56日まで)の間隔で**3回** ※生後12か月未満
追加接種：初回3回目終了後、**7か月以上**(標準的には13月まで)の間隔をおいて**1回**



※2回目、3回目が生後12か月を超える場合は、2回目、3回目は行わず、27日以上の間隔をあけて追加接種を実施

生後7か月以上
12か月未満

初回接種：27日以上(標準的には56日まで)の間隔で**2回** ※生後12か月未満
追加接種：初回2回目終了後、**7か月以上**(標準的には13月まで)の間隔をおいて**1回**



※2回目が生後12か月を超える場合は、2回目は行わず、27日以上の間隔をあけて追加接種を実施

生後12か月以上
5歳未満

1回のみ **1回目**

接種時に持参するもの

- ① ヒブワクチン接種予診票
- ② 母子健康手帳(接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。)